

1 学校教育目標

生徒一人一人の個性を最大限に伸ばさせ、社会の発展に貢献できる人間性豊かな活力ある人材を育成する。

2 目指す学校像

- 自己の生き方や進路について主体的に探究し、目標に向かって挑戦を続ける生徒を育成する学校
- 他者を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる生徒を育成する学校
- 社会の一員であることを認識し、社会人としてのモラルやマナーを身に付けた生徒を育成する学校

3 現状と課題（重点目標設定理由）

- ・昨年度で完成年度を迎え、教育内容の充実を図るため、生徒の自己肯定感・自己有用感を高める指導の充実に取り組むことが必要である。
- ・校内の充実を図るとともに、より開かれた学校づくりへの取組が必要である。
- ・働き方改革の取組を進めることは、引き続き喫緊の課題である。

4 目標

<p>[中期経営重点目標]</p> <p>○生徒一人一人が希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的に課題対応能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進める。</p> <p>○生徒一人一人が円滑な人間関係を築けるよう、入学時から組織的・計画的に自己理解・自己管理能力を高める取組を進める。</p> <p>○生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、入学時から組織的・計画的に人間関係形成・社会形成能力を高める取組を進める。</p> <p>○教職員が、心身ともに健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組を進める。</p>	<p>[（中間）評価]</p>
--	-----------------

短期経営重点目標（1年目）	評価結果	主な具体的方策	実施状況	分析（○）・改善策（◎）・支援要望（☆）
<p>生徒の課題対応能力及びキャリアプランニング能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進めるため教員の授業力の向上を図るとともに、生徒の探究的学習の充実や進路志望に応じた指導を充実させる。</p>	<p>努力指標：3 ※授業改善研修会1回実施</p> <p>成果指標：平日2、通信4 ※前期単位修得率 平日73.5%、通信67.7%</p>	<p>授業改善を目指して研究授業を定期的に行うとともに、生徒の学習意欲を高める。</p>	<p>【生徒の「できた!」を引き出す授業デザイン】をテーマとして、タブレットを活用した生徒参加型の授業づくりを提案し、全職員で実施することができた。</p>	<p>○全職員がタブレットを活用した授業づくりを行えるよう、ICT活用担当と連携した取組を、組織的に進めることができた。簡素な利用方法であったが、導入としては成功した取組みであったと考えている。</p> <p>○授業が「わかる」ようになることで、生徒は「参加したい」という思いを強くしていると感じている。その結果が、単位修得率の向上に結び付いている教科・科目も見られる。</p> <p>○平日登校コースの前期単位修得率の低下について、新型コロナウイルス感染後に登校することが難しくなった生徒の増加や、午後の選択科目の出席率の低下が挙げられる。次年度に向けて、本来の学習目的や意欲を前提とする履修指導を行いたい。</p> <p>◎授業改善研修のテーマをGoogleフォームの利用に限定をかけることで取組を進めたが、より効果的なICTの利用を進めている教員もいる。それらの取組について校内で紹介することで、教員の授業づくりの引き出しを増やしていきたい。</p>
	<p>両コースとも進路ガイダンスや進路検討会議を年間5回以上開催した（努力指標4）</p> <p>進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合は平日登校コース93.8%、通信教育コース98.8%であった（成果指標4）</p>	<p>すべての生徒の進路意識を高め、希望する進路を実現できるよう、JSTやチューターによる個別面談や進路ガイダンス、進路検討会議等の取組の充実を図る。</p>	<p>進路ガイダンスを月1回程度行った。また、生徒の進路に合わせてチューターやJSTによる個別面談を適宜行った。</p>	<p>○ガイダンスを定期的実施し、欠席をした生徒に対しては、チューターから生徒へ説明をし、随時情報共有しながら指導を進めていった。ガイダンスに欠席し、動きが遅くなった生徒は、やはり出願や応募まで短期間で準備することになり、面接等の仕上がりも乏しくなった。</p> <p>◎総合的な探究の時間やLHRの時間を活用して、低学年層に向けた進路指導をさらに充実し、早期から生徒の進路意識を高めていく必要がある。</p>
<p>重点 生徒の自己理解・自己管理能力を高める取組を進めるため、教育相談、SSTの授業、学校行事や部活動などの充実を図るとともに、自己肯定感・自己有用感を高める指導を充実させる。</p>	<p>【平日登校コース】 特別活動に対する肯定的評価：78.9% (成果指標3)</p> <p>【通信教育コース】 特別活動に対する肯定的評価：92.2% (成果指標4)</p>	<p>すべての生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう、学校行事や部活動・生徒会活動等を充実させるための取組を進める。</p>	<p>両コースとも生徒会執行部が中心となり、生徒会活動等を企画・実施することができた。また、遠足、文化祭といった学校行事を両コース合同で大規模に実施することができた。</p>	<p>○今年度も、特別活動の実施にあたっては、一定の制限の中で実施せざるを得なかった。その中でも、参加した特別活動に対して、両コースとも70%以上の生徒が肯定的回答をしているのは、生徒会執行部が主体となり、コロナ禍という状況、本校生徒の実態やニーズ等を踏まえ、工夫しながら企画・運営した方向性が適切なものであったこと、そして先生方の多大なる協力があつたことが要因として考えられる。</p> <p>◎各コースの特色を踏まえた特別活動のあり方について、検討を継続していく。平日登校コースにおいては、昼夜いずれの学習時間帯においても、体験的な活動を増やし、学校生活に授業以外の変化が付けられるようにしたい。通信教育コースにおいては、生徒が自分の興味・関心に応じて計画的に特別活動へ参加することができる環境を作るとともに、外部資源を活用した特別活動の実施を検討していきたい。</p>
	<p>チューター・年次主任・教育相談部を中心に連携を綿密にし、教育相談研修会を6回、いじめに関する研修会を2回実施した。（努力指標4）</p> <p>学校生活に係る生徒アンケートで、肯定的な評価は、平日登校コース89.5%、通信教育コース94.5%（成果指標4）</p>	<p>すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。</p>	<p>平日登校コースでは年3回、通信教育コースでは年2回のいじめアンケートを実施し、気になる生徒には早期に対応した。また、配慮が必要な生徒については、生徒指導、教育相談、養護教諭、SC等の関係者で情報を共有し、具体的な支援体制を構築した。</p>	<p>◎今年度の取組を継続させるとともに、研修会を更に充実させ、外部の機関と連携することで、教育相談の支援体制を強化している。</p>

重点 生徒の人間関係形成・社会形成能力を高めるため、地域・企業等との連携強化の取組を進める。	100 社を超える企業との連携をすることができた。(努力指標 4) 就職希望者の就職率は 66% (定時制 17/23、通信制 25/41) であった。(成果指標 3)	地域・企業との連携を強化し、生徒の進路希望達成率を高めることで、人間関係形成・社会形成能力の向上を図る。	JST やハローワーク、若者サポートステーションと連携し、志望企業の選定を行った。11 月以降は合同就職面接会やハローワークの巡回相談も利用し、進路決定に向けて積極的に取り組んだ。	○多様な生徒が多い本校の現状に対して、個に応じた支援・指導が必要だと考える。JST は進路指導室に常駐しており、生徒が進路相談をしやすい環境であった。また、ハローワークの就職支援ナビゲーターに 12 月頃から週に 1 回程度巡回相談を実施していただき、未内定者は進路実現に向けて積極的に取り組んだ。進路未決定者に対する外部機関との連携も積極的に行った。 ◎来年度も引き続き外部の方々に来校していただき、生徒の進路実現に繋げていきたい。その際、適切な時期やタイミングを見極めて計画を立てていく必要がある。 ☆生徒が情報収集や印刷物を印刷するための端末 (パソコン等) を進路指導室に設置してほしい (複教台)。
	【平日登校コース】 ・ホームページ、掲示板等の活用に関する肯定的評価：57.3% (成果指標 2) 【通信教育コース】 ・ホームページ、掲示板等の活用に関する肯定的評価：62.0% (成果指標 3) ・みらい通信の活用に関する肯定的評価：75.9% (成果指標 3)	すべての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的に情報発信を行う。	毎月、ホームページ、classroom、掲示板等を使って情報発信を行った	○各分掌との連携を密にし、必要な情報をホームページ、classroom、掲示板等で積極的に発信したことで、生徒の情報活用能力を高めることができた。 ○みらい通信の活用については、昨年度から導入した classroom が定着してきたことが高い評価につながり、生徒の自己管理能力を高めることができた。
	聴講生制度について、HP と市の広報誌 (『市民と市政』) で発信し、市民に周知した。(努力指標 2) 聴講生のアンケート回答では全員から来年度も継続して聴講したいと肯定的評価を得た。(成果指標 4)	聴講生制度を導入し、地域に貢献するため積極的に情報発信を行う。	後期からの聴講科目として、平日登校コースの英語会話と簿記、通信教育コースの数学 A について、本校 HP 及び「市民と市政」を通じて募集案内し、英語会話 3 名と簿記 2 名の聴講生を受け入れた。	◎後期からの聴講受け入れに系統性の観点等で課題があったが、その点を踏まえた運用上の工夫により初年度の実践を終えた。次年度は年度当初より、平日登校コース 2 科目、通信教育コース 6 科目の開講に向け、2 月下旬以降、本校 HP 及び「市民と市政」を通じて募集案内し、聴講生制度の拡充に努める。
重点 働き方改革の取組を進めるため、年間月平均の勤務時間外の削減とともに、年次有給休暇取得の促進を図る等の教職員の意識改革を進める。	各自が定めた定時退校日の平均実施率 (平日登校コース 4 月・9 月・12 月の抜粋調査) は、57% であった。 (努力指標 2) 年間月平均の勤務時間外在職時間が 45 時間以下の教職員の割合 (4 月～12 月) は、70.5% であった。 (成果指標 3)	教職員の年間月平均の勤務時間外の在職時間が 45 時間以下になるよう、各自が定めた定時退校日を確実に実施する。	定時退校日の設定は、前期の面談の際に周知し、職員室に掲示するなどして意識を高める工夫をした。 勤務時間外勤務となっている教員には管理職から声掛けをするなどして業務改善の意識付けを行うように努め、年休取得を時間単位でも可能な限り呼びかけて休養を取ることを促した。	○全体の年間時間外在職時間平均 (4 月～12 月) は、32.9 時間であり、各月平均をみても、45 時間を超えている月はないが、個別に見ると、月 80 時間を超えている場合が、4 月に 5 名、5 月に 1 名、6 月に 4 名、7 月に 1 名おり、4 月の 5 名のうち、2 名は 90 時間を超えていた。昨年度よりは改善はされているが、業務の見直しが必要である。 ○定時退校日の実施率については、昨年度 (75.6%) より少し下がっているため、再度意識を高める必要がある。 ○年次有給休暇の取得については、4 月～12 月までで平均 10 日取得できており、時間単位での取得も含めて休暇を取ることにについては、昨年度 (平均 11 日) 同様に実行できている。 ◎定時退校日や、時間単位を含めた年次有給休暇の取得の促進については、教員への周知が進んでいるが、時間外在職時間の削減については、業務の偏りの見直し等、人員配置の最適化を含めて来年度に向けて引き続き検討が必要である。

5 学校関係者評価に関する事項 (主な意見等)

- ・ iPad について、各家庭の状況を配慮しながら購入が進んでいる。iPad の活用自体が目的になってはいけませんが、活用を含めて、授業改善をさらに進めてほしい。
- ・ 通信教育コースの「みらい通信」は情報発信としてよく活用されているが、平日登校コースの情報発信について、改善を検討してほしい。
- ・ 今年度から始まった、保護者・地域との連携プロジェクトを今後も継続・発展させてほしい。
- ・ 平日登校コースで、登校できていない生徒への対応についていろいろと努力されているが、今後さらに改善することができれば、出席率や単位修得率の更なる向上につながると思われる。
- ・ 地元商店街での販売実習が今年度実施されたが、接客の仕方などさらに改善できるよう、地元商店街も協力していきたい。

6 その他の報告事項